様式第１号（第１０条関係）

２０２３年度業務実績報告書

提出日　　2024 年 1 月 10 日

１．職名・氏名　　准教授・小路　淳

２．学位　　学位　博士、専門分野　農学、授与機関　京都大学、授与年　2000

３．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 魚類学（2 単位）2 年次生 生態遺伝学（2 単位）3 年次生 科学英語 II（2 単位）3 年次生 生物学実験（1 単位）2 年次生 保全生態学実習（1 単位）3 年次生 水圏環境学実験（1 単位）2 年次生 インターンシップ（1 単位）3 年次生 海洋生物資源フィールド科学演習 I（2 単位）1 年次生
②内容・ねらい 水圏環境学実験（新規科目の主担当）において、複雑で多様な水圏環境に生息する生物を採集し、環境条件の関わりを調べるフィールドワークを身につけるためのメニューを考案した。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 保全生態学実習では、有機農法を実施している水田と、化学肥料を使用している水田との間で、水辺の生物の多様性を比較するフィールドワークを実施した。
(2)その他の教育活動
内容 11 月 13 日～17 日に、福井県立若狭高等学校の短期研修を受け入れ、地域に貢献する人材を育成する主旨に沿って、「身近な水域生態系の調査」と題して小浜市の重要な資源であるアユの生活史解明のためのフィールドワークを高校生とともに実施した。

４．研究業績

(1)研究業績の公表

① 著書

【0 本】

② 学術論文（査読あり）

1. Yasuhiro Kamimura, Jun Shoji. Highly structured habitats mitigate size- and growth-selective mortality of post-settlement juvenile fish. Fisheries Oceanography. https://doi.org/10.1111/fog.12663

2. Dominique Robert, Jun Shoji, Pascal Sirois, Akinori Takasuka, Ignacio A. Catalán, Arild Folkvord, Stuart A. Ludsin, Myron A. Peck, Su Sponaugle, Patricia M. Ayón, Richard D. Brodeur, Emily Y. Campbell, Evan K. D'Alessandro, John F. Dower, Louis Fortier, Alberto G. García, Klaus B. Huebert, Marc Hufnagl, Shin-ichi Ito, Mikimasa Joh, Francis Juanes, Mitsuo Nyuji, Yoshioki Oozeki, Guido Plaza, Motomitsu Takahashi, Yosuke Tanaka, Naoki Tojo, Shingo Watari, Naotaka Yasue, Pierre Pepin. Life in the fast lane: revisiting the fast growth – high survival paradigm during the early life stages of fishes. Fish and Fisheries 24, 863-888. https://doi.org/10.1111/faf.12774

*3. Jun Shoji and Takeshi Tomiyama. Influence of vegetation coverage on dissolved oxygen concentration in seagrass bed in the Seto Inland Sea: possible effects on fish nursery function. Estuaries and Coasts. doi: https://doi.org/10.1007/s12237-023-01205-x

4. Wataru Deguchi, Tatsunori Fujita, Michio Yoneda, Naoaki Kono, Masayuki Yamamoto, Kaito Harada, Jun Shoji, Takeshi Tomiyama. Potential impact of predation by larval Spanish mackerel on larval anchovy in the central Seto Inland Sea, Japan. Deep Sea Research II 208. https://doi.org/10.1016/j.dsr2.2023.105272

【4 本】

③ その他論文（査読なし）

【0 本】

④ 学会発表等

1. 広島県のガラモ場における魚類相の変化、日本水産学会令和 5 年度春季大会（2023 年 3 月），大西瑠美奈、山本啓斗、岩崎貞治、上村泰洋、小路淳、西嶋渉、冨山毅.
2. Life in the fast lane: revisiting the fast growth – high survival paradigm during the early life stages of fishes, 46th Larval Fish Conference（2023 年 5 月）, Dominique Robert, Jun Shoji, Pascal Sirois, Akinori Takasuka, Ignacio A. Catalán, Arild Folkvord, Stuart A. Ludsin, Myron A. Peck, Su Sponaugle, Patricia M. Ayón, Richard D. Brodeur, Emily Y. Campbell, Evan K. D'Alessandro, John F. Dower, Louis Fortier, Alberto G. García, Klaus B. Huebert, Marc Hufnagl, Shin-ichi Ito, Mikimasa Joh, Francis Juanes, Mitsuo Nyuji, Yoshioki Oozeki, Guido Plaza, Motomitsu Takahashi, Yosuke Tanaka, Naoki Tojo, Shingo Watari, Naotaka Yasue, and Pierre Pepin.
3. 小浜湾・高浜湾の砂浜海岸における低次生産および魚類群集の季節変動特性,2023 年度水産海洋学会研究発表大会（2023 年 11 月），髙柳百花，桂田芳紀，荒井　遼，倉賀野真央、杉本　亮、小路　淳.
4. 小浜湾周辺におけるアユ仔魚の出現、2023 年度水産海洋学会研究発表大会（2023 年 11 月）、荒井　遼，田原大輔，浜口昌巳，杉本　亮，小路　淳. .
5. 小浜湾の礫海岸におけるオオミミズハゼの生息環境と底質選択、2023 年度水産海洋学会研究発表大会（2023 年 11 月）、桂田芳紀，杉本　亮，小路　淳.

【5 件】

⑤ その他の公表実績

【0 本】

(2)科研費等の競争的資金獲得実績

【学外】
なし
【学内】
地域連携研究推進支援、1,500 千円

(3)特許等取得

(4)学会活動等

学術誌の査読：Scientific Reports (Springer Nature 社)

５．地域・社会貢献活動

1. 地域連携研究推進支援に採択され、「小浜湾の天然アユ復活に向けた、川と海における生活史と生息環境の統合解析：ふるさとの清流～海～食文化をつなぐ環境調和型地域ブランド創出へ」を代表者として推進した。

2. 藤島高校スーパーサイエンスハイスクール交流会支援 Global Science Leadership において高校生の英語プレゼンテーションに対する指導・助言を行った

3. 海友海担当（主）委員として、白樫祭の実施をサポートし、小浜周辺地域と大学の交流を深めることに貢献した

4. 福井県立若狭高等学校の短期研修を受け入れ、地域に貢献する人材を育成する主旨に沿った講義、実習を行った。

5. オープンキャンパス担当委員として、地域の高校生・保護者と大学との交流を深めた

６．大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

インターンシップ（主担当：4 月～3 月）
キャリアセンター担当（4 月～3 月）
オープンキャンパス（主担当：4 月～3 月）
論集編集委員（4 月～3 月）
海友会担当（主担当：4 月～3 月）
入試説明会（三重県立水産高等学校：7 月 10 日）
SSH 英語交流会（藤島高校、10 月 28 日）
フィールド科学演習 I 課題研究担当（4 月～11 月）
高校インターン（若狭高等学校、11 月 13～17 日）

(3)学内行事への参加

白樫祭（海友会）、10 月 6 日会場設営、10 月 7～8 日実施
プレオープンキャンパス、8 月 5 日
オープンキャンパス、8 月 6 日
オープンキャンパス（zoom）8 月 27 日

(4)その他、自発的活動など